



Nepal Blind Support Association

ネパールの視覚障害者を支える会(NBSA)会報 第33号 2012年8月

NBSA: <http://NBSA.sakura.ne.jp/>

主内容: 土に生きる/定例活動報告/ネパール往復一番安いルートで旅行してみました/純ちゃんのネパールには何を持って行こうかな/ゴビンダさんの冤罪と日本社会の責任/ネパールの天才盲児テレビインタビュー /変わり行くカトマンドゥ
おしらせ:日本の事務局が移転しました

土に生きる

*どどどどーど 甘いりんごを吹き飛ばせ すっぱいりんごも吹き飛ばせ
どどどど ... 宮沢賢治の風の又三郎*



ジャガイモの種を植え、育てそれを食らう。何代も何十年もジャガイモと向き合う。天と地の間には他に何も無い。写真家、長谷川尚司氏から送られて来た写真は100枚以上。冷たい大地に根を張りひたすら生きる女たちの姿を撮影したものばかりであった。

日本でも桜前線が話題になる3月下旬私は毎年シャクナゲを見るのが楽しみでネパールに出かけてます。今回はアマチュアの写真家の方と一緒にゴラパニ付近で満開のシャクナゲに大満足してカトマンズに帰ってきました。カトマンズでは是非「土と共に生きる」農村で働いている人々の生活が撮りたいとNBSAのオフィスで話をしていたら、パソコンにむかっていたスタッフのニルマン君が「今うちのジャガイモ畑は収穫の真っ最中だから明日にでも来て下さい。」ということになって、早速次の日に彼の村まで出掛けました。日本と違って赤や緑の原色の野良着でおしゃべりをしながらの楽しそうな手作業でのジャガイモ堀り、見てる方も何だか懐かしく楽しくなっていました。ニルマン君、ありがとう。(上田佳代子氏)

NBSA現地活動報告 2012年3月～7月

3月の定例活動

オーディオライブラリ：現在大学レベルの教科書の音訳2冊作成中です。ともに進学や就職に役立つもので、一般向けではありません。私たちは大勢の方々にNBSAのオーディオライブラリを利用してもらいたいのですが、難しい辞書のような分厚い教科書を無断で持ち込まれ、返すわけにもいかず作成を開始しました。1週間に3回教科書だけを読む朗読者を配置しましたが、完成には数ヶ月を要することになりそうです。

点字情報誌タッチ

タッチ第29号を作成中。私たちはカトマンドゥ盆地内の団体と大学、そして地方の盲人協会や高等学校にタッチを無料で配布していますが、配達されない場合が非常に多く、1年間に一度しか到着しなかったケースも多々あります。以前にも書きましたが、ネパール語点字で書かれた情報誌を作成し、地方にまで配布しているのは唯一NBSAだけなのです。そこで地方の盲人協会等にヒアリング調査を実施しました。カトマンドゥ周辺の県の盲人協会と学校には届くことがあったようでした。しかし南西部にはまったく届かなかったケースが多々あり、がっかりさせられました。カトマンドゥの中央郵便局から地方へ配送している事実は突きとめましたが、地方の郵便局に到着してからが問題なようです。私たちは点字情報誌を入れる特別サイズの封筒に、視覚障がい者が読む点字刊行物はすべて無償で配達される旨書いて発送しています。それでも届かないのです。本当に困ったものです。

4月の定例活動

オーディオライブラリ：

大学レベルの教科書の音訳2冊作成。同時並行的に一般的な小説も手がけています。新しい小説のタイトルは「イコールスカイ」男女の平等をテーマにしたものです。

字情報誌タッチ

タッチ第29号を完成させました。熟練のふたりの視覚障がい者が最終チェックし、4月4日にカトマンドゥ盆地内、そして地方に発送しました。今回のタッチのハイライトは新企画の一口お笑い話。日本の川柳のようなもの。点字プリンタは壊れたままで、ネパール盲人協会に印刷をお願いしたので、予算オーバーしてしまいました。

NBSAは昨年の4月1日にカトマンドゥのシタニバスに越してきました。ちょうどジャスミンの花盛り。夕方になると甘い香りが室内に流れてきました。今年の春は寒かったせいかやっと蕾が開きました。来年はぜひともこの時期、ネパールにおこしく下さい。

5月の定例活動

5月一時帰国のため休刊させていただきました

6月の定例活動

オーディオライブラリ事業

ついに完成しました。進学や就職、公務員試験に役立つ問題集。これは有無を言わず本が持ちこまれたのがきっかけ。スタッフ一同あっけにとられました何とか完成しました。完成までに何度も政治的なゼネストなどで女性の朗読者は外出をいやがり、けっこうきつい仕事になりました。

字情報誌タッチ

30号準備は終わりましたが、最終の編集会議がまだ少し残っています。これが済むと発送します。編集会議はネパール語点字の達人の年配役員が行うので、会議の日程を組むのが難しい。日本語点字も同じような面があるようですが、表現の仕方等がまちまちで、まだまだ改良の余地があるようです。

役員会 6月3日 日本から戻って来て初めての役員会でした。5月中は目一杯バンダ（ゼネスト）が決行され役員が集まる機会がなかったので、ひさしぶりの役員会はけっこう盛り上がり、半分は雑談で終わってしまいました。討議された内容は2012年度の特別事業、訓練自立訓練会やクイズコンテストの日取りなど。役員全員が30代中盤になり、かなりしっかりしてきました。NBSAは我が人生の一部になったと言う役員もいて、頼もしい限りです。

7月の定例活動

オーディオライブラリ事業

NBSAの事務所にやさしいお姉さんが来てくれました。彼女の名前はサビトリさん。部分的に義足を着け多少歩行が困難なのですが、雨の日にも必ず来てくれる。本当にありがたいことです。朗読のスピードは多少落ちますが、何より嬉しいのは時間に厳格なこと。必ず10分前に事務所に着き、手を洗ってから朗読を始めます。年齢的に他のボランティアより上で、今後よいリーダーになってもらえそうです。現在読んでもらっているのは、有名なシンガー、そしてラマ教の尼僧であるアニ・チョン・ドルマさんのエッセイ集です。

字情報誌タッチ

30号完成。すぐに印刷してネパール各地の盲人協会や学校などに配布しました。主な内容は定番の視覚障がい者および他の障がい者のムーブメントやイベント。一般紙に掲載された障がい者に関する記事など。私たちは年間6回の出版をめざしているのですが、これまでの最高は年間5回。今年の4月からやっと2巻目が終わったところです。今年こそは年間計画通り6回の出版を達成したいものです。

こんな旅もあるんだ！ アラブ首長国経由でネパール入り

成田空港から一番安いネパール行き空路はこれだ！

昨年、成田からアラブ首長国連邦(UAE)を経由してネパールに行きました。機内食はなんと和食もどき。デザートは羊羹。ちと100円均一風であったがここで残しては女がすたる。たかピーのおばはんに見られないよう全部平らげました。機内はガラすき。思う存分身体を伸ばして寝られました。乗客は多国籍。出稼ぎ帰りのアフガン人、ネパール人、ヨーロッパ人。日本人も結構乗っていたが、最終目的はギリシャ。まさか！アラブまで行って、東のネパールに戻る日本人がいるなどス

チュワードスさんも知らなかったでしょうね～。明け方アブダビ空港に到着。日本人団体はみんなギリシャへ行ってしまいました。それからカトマンドゥ行きの飛行機を待つこと7時間。フライトが大幅に遅れたそうです。すごく奇妙だったのは、成田から西へ飛んで行ったのに、アブダビからネパールに向けて東へ東へと戻っていったこと。帰りの便は、当然のごとく東のカトマンから西へ飛び、アブダビからまた東の果ての日本まで飛んで帰った。正直言って疲れました。(YA)



行きの待ち時間7時間はきつい！帰りの乗り換え時間 20 分。これもきつかった。空港でもネパリーやチャイニーズが元気に働いていた。写真左：空港の待合室はモザイクのドーム。神秘的そしてきれい。写真右：空港内のお土産屋。女性のブルカ。等身大のラクダ。白檀のたばこケース等。

純ちゃんのネパールひとり旅体験記 ネパールには何を持っていこうかな？

今年の冬、ネパールひとり旅3回目にチャレンジした小島純子さん。思わぬ寒波に見舞われふるふる、がくがく。彼女は八王子市の盲学校の先生ですが、今回は正月休みを利用して再度ネパール入り。視覚障がい者も快適な旅ができるよう、ネパールには何を持っていったらよいか教えてもらいました。

ネパール人の名前、地名聞きにくい覚えにくい時はこれ！レコーダが便利。電化製品は 220V 対応のものを選びましょう。男性へのアドバイス。電気剃刀は乾電池や充電可能なものを選んでください。

レコーダの次は、停電のときでも使える携帯の充電器です。携帯電話は旅行先で連絡を取ったり、新しくできた友達の連絡先を登録しておいたり、音声で時刻を確認したり、私にとっては旅行の必需品です。しかしカトマンズは停電が多く、去年の冬は 1 日 10 時間以上にもなりました。いつからいつまでが停電でいつ電気が来るのか旅行者にはわかりづらいですし、電気が来ているときに丁度バスで移動している最中だったりすれば貴重な充電チャンスを逃してしまうでしょう。それで私がネパールに行くときは、乾電池を入れて使うタイプの充電器を持って行きます。これなら単 4 電池を 2 本セットして器具を携帯電話の充電器を差し込むところに接続するだけです。移動しながらも充電することができます。100 円ショップでも手に入りますので、ネパールに行くときは是非持って行ってくださいね。

う～ん、参考になりました。純子さんありがとう。次回はお土産編も書いてくださいね。

ゴビンダさんの冤罪と日本社会の責任

谷川昌幸氏 元長崎大学教授 現在ネパール学術調査センター顧問

「東電 OL 殺人事件」の再審が6月7日東京高裁で認められ、ゴビンダ・マイナリさんは逮捕後 15 年を経てようやく釈放され、ネパールに帰国した。この高裁決定には検察が異議を申し立てているが、決定理由をみると、再審開始、無罪判決となることはほぼ間違いない。冤罪である。

この冤罪には、警察・検察・裁判所だけでなく、日本社会そのものも深く関与しており、道義的責任は免れない。

事件は 1997 年 3 月発生。東京電力女性エリート社員が渋谷区円山のアパートで殺され、現場近くに住み面識もあったゴビンダさんが逮捕された。強引な捜査・取り調べにもかかわらず、ゴビンダさんは一貫して否認し、また犯行を裏付ける直接証拠は何一つえられなかったが、検察は状況証拠だけで十分立証されるとして同年 6 月、強盗殺人罪で起訴した。審理は東京地裁で行われ、2000 年 4 月、無罪判決が言い渡された。

この裁判は、本来なら、ここで終わり、ゴビンダさんはオーバーステイで国外退去となり、ネパールに戻っているはずであった。ところが、検察は東京高裁に控訴する一方、ゴビンダさんの再勾留を請求した。再勾留要請地裁提出 地裁棄却 再勾留要請高裁提出 高裁・木谷裁判長、要請棄却 再勾留要請高裁提出 高裁・高木裁判長、再勾留決定 弁護側最高裁特別抗告 最高裁 3 対 2 で特別抗告棄却。この経緯からも、無罪判決後の再勾留がいかに強引であったかは明白である。それは、刑事訴訟法の常識にすら反する違憲の国家行為であった。

東京高裁での控訴審は、実質的審理もほとんどすることなく、半年後の 2000 年 12 月結審、高木裁判長は逆転有罪の無期懲役刑を言い渡した。弁護側は直ちに最高裁に上告したが、2003 年 10 月最高裁は上告を棄却、ゴビンダさんの無期懲役刑が確定した。最高裁は、「疑わしきは被告人の利益に」の刑事裁判大原則にも無罪判決後再勾留の違憲性にも目をふさぎ、検察と東京高裁(高木裁判長)の無謀無法な暴走をただ追認してしまったのである。

どうしてこのような理不尽なことが起こってしまったのか？ 直接的には警察・検察と裁判所に責任があることはいうまでもないが、彼らをしてそうさせたのは歪な日本社会とその政治からの様々な圧力である。事件が発生すると、昼は東電女性エリート社員、夜は街娼という被害女性の二面性にメディアは飛びつき、人権無視の暴露報道を際限なくエスカレートさせ、捜査の行方への関心を異様なまでに高めていった。一方、この頃、世間では世紀末的閉塞状況を背景に、外国人の不法就労や凶悪犯罪がヒステリックなまでに非難攻撃されていた。そこに、ゴビンダさんが容疑者として浮上り、警察は彼を真犯人と見込み、逮捕した。世間の期待する犯人像にぴったりであり、たとえ自白や直接証拠がえられなくても、もはや警察・検察には、いや裁判所にすら、後戻りする勇気はなかった。

世界最貧国ネパールからの出稼ぎ不法滞在者・不法就労者は、日本国民の鬱屈した不満と、それを恐れつつ密かに操作しようとする日本政治の暗黙のスケープゴートにされてしまったのである。

ゴビンダ裁判は、大きくは、いわば日本社会の「政治裁判」の側面をもつ。日本国家にはむろんのこと、日本国民にもこの冤罪への責任がある。誠実な国家賠償と、冤罪への心からの謝罪・反省である。いまさら15年の歳月は取り戻しようもないが、せめてもの救いとしては、ゴビンダさんの無実の訴えを信じ、十数年もの長きにわたって支援してきた日本人が少なからずいたことだ。彼らの物心両面に渡る支援がなければ、再審・釈放はあり得なかったであろう。 以上

日本で始めて東京大学助教授になった、ネパールの視覚障がい者 カマル・ラメチャネ氏のインタビューが、8月3日ネパールのテレビで放映されました！

私の出身地は南部ネパールのチトワン。12歳になるまで視覚障がい者が一般の学童と共に学べることは誰も考えもしなかった頃、私の父は他の兄弟姉妹と同様に僕を学校へ通わせました。今日では盲児が学校へ行くのは、ごく当たり前のことですが、20年前のネパールではとても大変なことで、父の努力があったからこそ実現した入学と感謝しています。学校に通い始めて私の世界は明るくなりました。そして暗いとはなにかも知りました。父自身には教育がなかったのですが、子供の自立がいかに大切で、男の子も女の子も平等に学び、いつかは独立せねばねばならないと思っていたようです。

12歳の時にカトマンドゥ近郊のサノティミの盲学校に入学し、中等学校終了試験 SLC では全国的に1位の成績を修めることができました。また、ネパールの大学を卒業し、その後日本に特待生として留学し、東京大学の特殊教育学の助教授になりました。現在私は JICA に転職し、様々な障害を持たされた人々を包括した社会のあり方等を模索する研究員として働いています。留学や就職先をどうして日本に求めたのですか、とよく聞かれます。私はこれまで、15の国を訪問しましたが、バリアフリーなど障がい者を包括した社会建設の取り組みは、日本が世界中で一番理想的であると思ったからです。

(カマルさんのインタビューはこの後20分程続きますが、割愛させていただきました。

ネパールの多くの視覚障がい者の人々は、このインタビューを聞きことでしょう。視力に障がいのある児童、ない児童にかかわらず、大きな夢と希望を持ってもらいたいと願っています。

写真右：ネパールの国花 ラリーグラス(石楠花)



カトマンドゥ 道路拡張計画

バクタプルからカトマンドゥへの道路幅がぐっと広がり、大変な工事であったが市民には大うけした。これは日本の途上国開発援助の一環であったが、今度の市内の道路拡張はバタライ首相の強硬な政策で施工が始まったと言われる。道路拡張令は35年前に発布されたそう。少し具体的になったのは10年前、道路際に住む人々へ立ち退き料が支払われ、常識的には市民はそのお金で道路から引っ込んだ所に家を建てたが、主に商店街の人々は立ち退き料だけをもらって商いを続け通していた。NBSA 事務所のあるマハラジガンジ周辺が今回の立ち退きのターゲット。事務所は大通りから離れているのでまったく影響なし。商店街などではデモが盛んに行われたが、立ち退き料をもらっているので効果なし。さて、強制自主立ち退きの現場を見てみましょう。



写真上左：おーい、おまわりさん。とりあえずこわしたよ！と自分の店の前で一息つく食堂の経営者と従業員。写真上右：ここまでやれば立派な前衛芸術。以前は電気屋だったらしいが。



写真3：左 えっそうー。
昨日は薬屋だったのに。
写真4：右
こちらの薬屋は最後の最後まで粘る。
店先にビニールシートを張ってお客のニーズに応える姿勢がえらい



写真5：右

たぶんここが最後になるでしょう。小さいですが、シバ神のお寺。朝は元気に鐘を鳴らし、夕方は市民が灯明を照らして、一日の無事に感謝をささげていました。大好きな紫のジャガランダの大木も、根までこそげられてしまって、くすん。



2011 年度活動報告 NBSA カトマンドゥ

定例活動

オーディオライブラリー

点字情報誌タッチの作成と配布

3. その他の定例活動

ネパールにて使用済み衣類の回収と配布

日本向けネットニュースのメール配信 11回

日本の会員向け会報の配信 3回

事業の部

5月 災害見舞いのはがき会員にカトマンドゥから送付

7月 ガイジャトラ お楽しみ会 歌合戦 物まね等

9月 こどもの日クイズ大会 (カトマンドゥとチトワン)

12月 国際障がい者の日 デモ行進に参加

国際ボランティアデー ボランティアの方々の慰労会

その他：12月 ネパール側の役員会議2回 及び選挙

新会長 ビソ・アディカリ 副会長 シュレス・ラジバンダリ

会計 アルナ・バスネット

一般役員：オム・プラカス ディーパク・サブコタ プララダ・タパ

1月4日 1月4日 点字競技会 (役員の自主参加)

2月 全国障がい者連盟の総会に参加(代表3名)

総論 今後電気のない国でどのように活動していくかについて、深く考えさせられた年だった。これまで7年間使っていた事務所のデスクトップパソコンが次々に故障し、何度も修理や部品の交換を行った。使用頻度が高く、使用するボランティアに技術的差異がかなり荒い使い方をしたのも原因のひとつだった。

電力不足に関して、解決策として小型の蓄電器(インバータ)を購入したが、停電の時にデスクトップパソコンを使用すると小型の蓄電器はすぐに消耗してしまう。その点ラップトップパソコンは蓄電池が内蔵されているので停電時にも数時間使用できる。今後、ラップトップパソコンの寄贈者を募る計画がある。ネパールの計画停電は今後数年間は改善の見込みがなさそうだ。

点字印刷機も長期に亘り不良であったため、点字誌の発行が大幅に遅れた。こうした機械

類の故障、老朽化は食い止めることができない。活動環境が著しく悪いネパールで、NBSAはかなり斬新な事業に取り組んでいるので、こうした障害はどうしても生じてしまう。今後、活動資金の援助について、こうした機器類の寄贈を広くお願いしていく計画である。NBSA 事務所をカトマンドゥーに開設した当時は訪問者も少なく、また事務所に来ても誰かが本や新聞を読んでいる声に耳を傾けたりして時間をつぶす人が多かった。最近のNBSAは一種のカルチャーセンターのようになり、利用者のニーズの範囲が一気に拡大した。そのニーズに応えるためにはコンピューターなどを駆使して作業をしなければならない。電力が慢性的に不足しているネパールで、このような事業を展開するのは容易ではない。

現地コーディネーター・渥美 資子

以上

2011 年度活動報告 NBSA 日本事務局

1. 会報の発行・送付 年3回
2. 会費・寄附金の受入（資金管理）
3. 現地への送金
4. 会費・寄附金の依頼（事あるごとに）

2012 年度活動計画 NBSA カトマンドゥー

定例活動

オーディオライブラリー 作成目標：20冊

点字情報誌タッチの作成と配布 作成目標 年間5回

その他の定例活動計画

ネパールにて使用済み衣類の回収と配布

日本向けネットニュースのメール配信 11回

日本の会員向け会報の配信 3回

事業の部

7月 ガイジャトラ お楽しみ会 歌合戦 物まね等

9月 こどもの日クイズ大会（カトマンドゥーと地方都市）

10月 ダサインとティハール休暇

12月 国際障がい者の日 及び 国際ボランティアデー

その他：生活自立訓練会（キルティプル市予定）

2012 年度活動計画 NBSA 日本事務局

事務局の引継ぎを行う

その他、例年どおり現地への資金援助を行う

ネパールの視覚障害者を支える会事務局からのお知らせ

新住所:千葉県柏市 松葉町 6-8-1 地域活動支援センターポコアポコ (電)04-7136-0505

今年の日本の夏は異常気象ともいえる天気、西日本の集中豪雨や関東の酷暑など大変な毎日が続いておりますが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、NBSA においては、諸般の事情により 2008 年より事務局をお願いしていた「視覚障害者総合支援センターちば」から「地域活動支援センターポコアポコ」へ事務局を移転することになりました。渥美会長から事務局をお願いされ、センター職員と話し合い、職員有志で事務局をお引き受けすることとしました。

地域活動支援センターポコアポコは、千葉県北西部の柏市に位置し、障害者自立支援法の地域活動支援センターとして視覚障害者を中心に定員 19 名の小さな事業所です。2009 年 10 月に福祉作業所としてスタートし、2011 年 4 月に地域活動支援センターとなった、若い施設です。このため、経験も実績も少なく、事務局をお引き受けするには力不足と思われませんが、皆様方のご協力をいただきながら、微力ではありますが、一所懸命に努力する所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

以上のような状況から、本来なら年度始めに会員の皆様にお集まりいただき、総会を開催しなければならないところではありますが、開催が困難となってしまう、2012 年度の総会は書面による総会とさせていただきます。

今後とも、会員の皆様にはなにかとご迷惑をおかけすることがあると思いますがよろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

事務局 小林・藤原・松平

千葉県四街道の視覚障がい者総合支援センターちばの方々には、長らくご協力いただき感謝に耐えません。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。 会長 渥美 資子

Nepal Blind Support Association(NBSA)

P.O.Box:8974 PCN-111 Katmandu Nepal Tel:977-444-6234

日本の窓口: 千葉県柏市 松葉町 6-8-1 地域活動支援センターポコアポコ内(電)04-7136-0505

NBSA : HP:<http://NBSA.sakura.ne.jp/>

維持会費: 個人会員年間 6,000 円 / 協力会員年間 3,000 円/法人会員年間 15,000 円

振込先: 口座記号番号郵便局 振込み番号 0 1 9 0 - 7 - 7 6 2 7 7 5

ネットニュースのご紹介

毎月 1 回配信の NBSA ネットニュースはネパール現地の活動報告のほか、ネパール関連の様々なニュース、政治状況を掲載しています。ネパールへの渡航状況を知る上で便利。

ホームページ NBSA:<http://NBSA.sakura.ne.jp/> をご覧ください。

毎月の配信をご希望の方は直接ネパールにお申し込みください。nbsa@mail.com.np